スタッフルーム
Staff room

ゴルフよもやま話

角田（かくだ）　浩子（ひろこ）
（藤沢中・高等部図書室）

人様から「趣味はなんですか」と質問されたら「ゴルフを少々」と答えている。よいお天気の中，景色を楽しみながらの余暇としてのゴルフである。初心者のころに比べ体力は落ちたが，精神的余裕と小技の要領を得たためか，とても良いとはいえないが一定のスコアで踏みとどまっている。練習もしないので上達もしないが，まぐれのバーディーや奇跡のロングパットが入り自画自賛など，できるだけ良い結果を記憶して１日のプレーを終えるようにしている。

さて，ゴルフの１ラウンドは通常は４人一組となって18ホールをプレイするものだが，知り合いどうしの４人であれば気心も知れているが，こちらが２人の場合は見ず知らずの相手との組み合わせとなる。朝チェックインしてスタートの時間に「はじめまして･･･」という形で本日の組み合わせ相手とご対面。ご夫婦，親子，友人同士，はたまた別々の１人ずつなど組み合わせはさまざま，性格もいろいろであるから最初は少し緊張する。はじめの１～２ホールで他愛の無いやり取りをして進むうちに，相手の性格やプレーのリズムなどを観察する。上手な方の場合には迷惑をかけないようにとプレーに集中して緊張感も持続するためか，意外と良いスコアが出ることもある。和気藹々と話が盛り上がるような場合は，お勧めのゴルフコースや道具などいろいろな情報交換をして一日楽しく過ごすことができる。そうかと思えば，自分が打ち終えたら常に先へ先へと進んでしまうせっかちなプレーヤーにリズムを乱されてしまったり，４人に共通についているキャディさんを独り占めして一打ごとにアドバイスを求め，他のプレーヤーのことを考えない人，など多種多様なのである。相手の印象の良し悪しにかかわらず，１日をできるだけ楽しくするためにいろいろと話をして，何か共通の話題にたどり着ければしめたものである。いつも「一期一会」をこころして，お互いに相手のことを気遣い気持ちよくプレーをしたいものだと思う。

そして，ゴルフをされる方にお勧めしたい本がある。中部銀次郎著『ゴルフの真髄：新編 もっと深く，もっと楽しく』（日本経済新聞社，2003）である。湘南藤沢メディアセンターのテクニカル担当であった当時，学生からのリクエストで受入れした際に興味を持ち，読んでみたらこれが大変面白かった。中部銀次郎氏（1942-2001）は日本アマチュア選手権競技優勝６回の記録を持つ伝説のアマチュアゴルファーだが，この本ではゴルフの技術的なことよりも精神面について書かれていて，目次には「自分自身を知れ」「一歩退く勇気を持て」「技ではなく，心の問題に帰着する」「欲は捨てること」など禅の入門書のような言葉が並んでいる。打ったボールがあらぬ方向へ飛んで行ったり，短いパットをはずしたりして，こんなはずではなかったと嘆くことしきり，ショートホールでバーディーを取って「狙い通り！やったね！」と満面の笑みを浮かべる場面もまれにあるが，中部氏によると「すべては実力。アマチュアにとってバーディーはまぐれである」とある。読み進んでいく間に何度も，「おっしゃるとおりでございます」と言いたくなるようなゴルファーの陥りやすいミスの原因や精神状況などについて淡々とした調子で書かれている。この本を読んでから「ここでグリーンに乗せてやろうと思ってはいけない。平常心で･･･」とか，「あぁ，確かに今私は少しだけ欲をかきました」などと中部氏の教えを思い出しては反省しながらゴルフを楽しんでいる。

最後に，ここ数年我が家で恒例行事となっているハワイゴルフ合宿。合宿といってもハワイ島でゴルフのあとのビールを楽しむために続けているのであるが，季節によっては鯨を観ながらのラウンドも可能だし，なんといっても年間晴天率90％といわれるコナコーストはゴルファーにとっては楽園そのもの。もちろん，ゴルフをしない方にも世界３大パワースポットの癒しと美しいサンセット，火山や滝，すばらしい星空が待っている。独特のやわらかい空気は一度体験したら病みつきになること間違いなし。ハワイ島未上陸の方にぜひお勧めしたい。